

一朔日○中山門總代、日光山總代、兼越後國要禪寺 凌雲院大僧正、淺草 傳法院僧正、武州仙波 喜多院權僧正、信解院權僧正、上州世良田 長樂寺權僧正、目黒龍泉寺 惠應院、目黒 覺王院、四ツ谷 自證院、兼水戸御宮別當吉祥院 覺樹院、右一人宛罷出、年頭之御禮、御奏者番披露之、

但山門總代、日光總代、并僧正之進物ハ、御敷居之内二疊目置之、中興御小性役之、其餘ハ御敷

居之外二疊目置之、進物番役之、山門日光總代ハ三束一卷、僧正ハ一束一卷、其外一束一卷也、

上野 御宮別當、同所 御佛殿別當、久能山 德音院、鳳來寺 松高院、千駄木 保福寺、瀧山御宮別當吉祥院 青龍院、谷中 感應寺、右進物持參之、六七

人宛罷出、年頭之御禮、御奏者番披露之、進物ハ進物番引之、過而御間之御襖障子老中披之、敷居際

に立御、此節御次之間、東叡山總中、遠國之寺院、紅葉山別當、日光山 社家共、日光御門主 家老、日光御目代 山口圖書、東叡 田

山目代 村權右衛門、樂人共、右之輩進物前に置之列座、一同に平伏、年頭之御禮、御奏者番披露之、右相濟

而入御、御先立

〔日次紀事十二月〕此月、神人僧徒、其外勤公用之輩、或連歌師、○中 各爲賀、年始趣、東武、

〔官中秘策十六年中行事〕一正月六日、寺社御禮、○中

一當日寺社御禮之由來者、神君御父廣忠公、天文十八年己酉六日逝去し給ふ、時に御年二十四

歳にて、大樹寺に奉葬、瑞雲院殿、應政道幹大居士と奉稱而、六日は御忌日たるによりて、諸出

家年始を賀する日と定め玉ふとぞ、

〔徳川禁令考四十二僧侶作法〕慶安五辰年正月七日

寺社之輩參來之定

定

一年頭并御祝儀等之節、關東中此書立十ヶ國、武州、相州、豆州、上州、野州、上總、下總、常州、房州、甲州、寺

社之輩、自前々雖令參來、寺社領貳拾石以下ハ、自今以後不及參府、縱雖爲貳拾石已上、自此跡不